
黒田官兵衛末期の回想

五行衆 火車

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

黒田官兵衛末期の回想

【Nコード】

N3363N

【作者名】

五行衆 火車

【あらすじ】

黒田官兵衛が死ぬ前に思ったこと、それは後悔であったろうか？

（前書き）

黒田官兵衛が死ぬ前どう思ったか自分なりに連想してみた。

夢を……見ていた。

天下を取る夢を。

儂はやっぱ天下を望んでいたんやろうな。

亡き太閤殿下が本能寺の変を知った時、儂が言った言葉。

「今こそ御開運の時ですぞ」

いやーあれは失敗やった。あまりに頭が切れすぎる事を主君に悟られてはなんのや。智者は時に愚か者を装わなくてはなん時もあるんや。

あれで、太閤殿下はすっかり警戒してしもたわ。

九州平定後、与えられたのは、豊前内六郡、たったの十二万三千石。よっぽど儂のことを警戒しとったんやな。

太閤殿下亡き後……。乱が起ることを見越してた儂は、息子の長政にはあの狸ジジイ……もとい、徳川殿の力になるようにと言いついて聞かせ、儂は天下の夢を見ることにしたんや。

関ヶ原が起る前に、まずは豊後の大友。西軍に属した諸大名の城を次々陥落させていった。そして加藤、立花、鍋島勢を加えた四万の軍勢で、九州最後の大物、島津との戦いや。

関ヶ原が終わってもまだ戦っていたんや。関ヶ原より引き上げてきていた立花宗茂と島津義弘と戦って勝利したしな。

——まだ続けるつもりやった。

狸ジジイめ、島津と和議を結んで、停戦命令や。

——皮肉にも、息子の長政の調略のお陰で戦いがはよ終わってしもたんや……。もっと長引いとったらなあ……。

それで、長政に言つたもんや。

「家康様は、『この勝ちが長政殿のおかげでござる』と、私の手を三度も押し頂いてくれました。」

.....。

このアホがあー!!

「手を握られたのはどちらの手か？」

「右手でございました」

「すると、そなたの左手は何をしていた」

叱ったった。

まあある程度は冗談やけどな、半分本気やった。

——天下が欲しかった。

——いつまでも野望を持っていたかった。

儂の号は『如水』やのにな。

——心清き事水の如し。

しかし、中途半端な欲を抱くことはもう終わり。もうお迎えが来たようや.....。

「くわん、天下が欲しかったか？」

?!

太閤殿下.....。

「ええ、ほしゅうございました、しかしあまりに夢を追ひ、欲をかきすぎると、太閤殿下のようになつてしまいますゆえ.....。夢を超えて、求めるものが大きくなりすぎまする」

猿のような顔がくしゃくしゃになって笑顔を作る太閤殿下。

「そうか、それでよいわ、さあ、行こうぞ、くわん！」

「はい……それで僕は切支丹でもあったのですが、行くのはパライソでしょうか、それとも極楽浄土でしょうか……？」

「そんなことはどうでもいいわ……、楽しいところよ……！」

そう、僕はどこに向かうかは分からへん。でもパライソであろうが極楽浄土であろうが、そこでは天下取りの争いなどないやろつな……。

さらば、娑婆よ！

(後書き)

長編で書いてみたいかも。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3363n/>

黒田官兵衛末期の回想

2010年10月8日13時13分発行